

名稱

モ無シ、後ニハ之ヲ春興殿ニ遷シ、近代伊勢大神宮ニ擬ヘテ齋ヒ祭り、内侍ヲシテ守護セシ
 ニ至リ、特ニ内侍所ト云フ殿ヲ建ララル、伊勢大神宮ニ擬ヘテ齋ヒ祭り、内侍ヲシテ守護セシ
 ヌ、歲時ニ神樂ヲ奏シ、又疾病事故ニ由リ、祈願スルコト有リ、此寶鏡、又賢所ト稱ス、畏敬スベ
 キノ謂ナリ、天德以來數度ノ火災ニモ灰燼トナラズ、壽永ノ亂、海底ニ沈マズ、嘉吉ノ變、敵手
 ニ渡ラズ、其威靈眞ニ畏ムベシ、賢所ノ稱是ニ於テ益々驗アリ、恐所、威所、尊所等ノ文字、賢所
 ト同シク、皆カシコドコロト
 訓、又内侍守護スルヲ以テ、内侍所トモ稱ス、近世學者、三器輕重ノ差別ヲ説クモノアレド、古
 書ニ於テ、未ダ確徵ヲ見ザレバ、姑ク置テ論ゼズ、女官御燈、又璽篋、劍櫃ノ類、神器ニ緣由アル
 モノハ、爰ニ附載ス、

〔八雲御抄三下〕雜物のたからなまがり玉やたのか草も、やたかいみ古語神也

〔玉葉和歌集二〕神祇三種の寶物の心を 從一位教良

神代より三くさのたからの傳はりて豐蘆原のまるしとどなる、

〔新葉和歌集二〕神祇題まらず 後村上院御製

四海浪もをさまるまるしとて三のたからを身にどつたふる、

〔新拾遺和歌集十〕神祇題まらず 大江廣秀

くもりなきやたの鏡や岩とあけし天てる神のみかげなるらん、

〔日本紀略四〕村上天德四年九月廿四日辛酉、鏡三、加之古止古、呂〇節略

〔夫木和歌抄三〕雜四家集 中原師光朝臣

やまとにもまがりのたまとくさなぎのつるぎは國のたからなりけり、

〔古事記上〕爾速須佐之男命、中猶其惡態不止而轉、天照大御神坐忌服屋而、令織神御衣之時、穿其

服屋之頂、剝天斑馬剝而、所墮入時、天衣織女見驚而、於梭衝陰上而死、訓陰上云富登上、故於是天照大御神

見畏、開天石屋戸而、刺許母理、此三字以音、坐也、爾高天原皆噴葦原中國悉闔、因此而常夜往、於是萬神之

神器起原